

責任投資

アクサ・インベストメント・マネージャーズの ESG基準方針



お客様の資産のステュワードとして、当社の最大の目標はお客様の資産の保全と成長を支援することです。これを達成する上で重要な役割を担うのが、責任ある投資です。責任投資（RI）は、お客様に持続可能で長期的な価値をもたらすだけでなく、社会に有益な影響をもたらし得ると、当社は考えています。

責任ある投資家として、アクサ・インベストメント・マネージャーズ（「アクサIM」）では、お客様に代って投資を行う際、ESG（環境、社会、ガバナンス）に関わるリスクや投資機会を管理します。ESGに関連するリスク要因が一定の基準を超えた場合には、投資対象としないセクター、製品およびサービスを定めています。これらの基準は、責任ある投資家としての当社の確信を反映するものであり、また当社の責任投資を組み入れたオープンエンド型ファンドに適用しています¹。これは事前承認済みベースの機関投資家のお客様にもご利用いただけます。これらの基準は、アクサIM全体に適用される責任投資のセクター方

¹これには、ESG統合、サステナブル投資およびインパクト投資を行うオープンエンド型ファンドが含まれます。これらのオープンエンド型ファンドは、金融機関等を対象としたサステナビリティ関連の開示に関する欧州議会・理事会規則2019/2088（「SFDR」）に従い、ESG特性を促進するもの（「同規則第8条」）、またはその目的として持続可能な投資を行うもの（「第9条」）として分類されています。当社のRIの分類に関する詳細については、アクサIMのグローバルウェブサイトをご覧ください。

針（気候変動リスク、論議を呼んでいる武器、パーム油に関する各方針等を含む）を補完するものであり、当社のESG統合アプローチのひとつの要素です²。

アクサIMのESG基準は、ESGおよび持続可能性に関するテールリスクを管理する際の指針となっており、健康、社会資本といった重要課題に焦点を当てています。さらに、深刻な議論を巻き起こしている問題およびESGクオリティの低い投資対象を考慮しています。以下に示すように、当社は、ESG基準に従った結果として、たばこ産業、白リン弾製造企業および国連グローバル・コンパクト（UNGC）の原則に反している企業を投資対象から外しており、また、ESGのクオリティが低い発行体へのエクスポージャーを最小限にしています。

• たばこ

たばこによる悪影響は十分に立証されており、その結果として、多くの投資家がたばこセクターから撤退しています。たばこの規制に関する世界保健機関（WHO）枠組条約は、WHOの主導で採択された保健分野における初めての国際条約であり、2005年に発効し、現在は世界人口の90%を占める181カ国が条約の締約国となっています。このイニシアチブは、たばこ製品の貿易自由化、直接対外投資、たばこの広告、たばこ製品にかかる財政的支援や不法取引といった問題に向き合い、取り組むことを目的としたものです。WHOは、たばこ生産に児童の労働力を使っていることから国連の原則に反するとしています。2018年、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約の事務局長は、国際労働機関の試算に触れ、2011年に年間およそ130万人の子どもたちがたばこ農場で作業に従事していたと述べました。たばこの消費量の増加傾向は高所得国から低所得国へと移ってきており、2000年から2013年の間、トルコ、ブラジルおよび米国では消費量が減少しましたが、アルゼンチン、インド、ジンバブエといった国々では増加しました³。

たばこで毎年800万人の人々が死亡しており、このうち約10%が受動喫煙によるものであることから、WHOはたばこに関する被害（エピソード）を「世界がこれまでに直面した中で最大の公衆衛生上の脅威のひとつ」と呼んでいます（OMS、2020年）。たばこ業界が直面する圧力は継続的かつ確実に高まっていることを踏まえ、当社では、たばこ企業に関する規制リスクおよび収益性リスクは依然、本源的に過小評価されていると考えています。

• 白リン弾製造企業

白リン弾は、化学元素リンに由来し、焼夷兵器の爆薬として利用されます。このような爆薬は、長時間にわたり大気中で燃焼するため、人が住んでいる地域で利用された場合、人の筋肉や骨まで深く浸透して燃焼し、過度な傷害を引き起こします。

²アクサIMのESG統合アプローチおよびRIのセクター方針の詳細については、アクサIMグローバルウェブサイトに記載のRI方針をご覧ください。

³2018年6月25日付ガーディアン紙

白リン弾は、「物に火炎を生じさせ又は人に火傷を負わせることを第一義的な目的として設計された武器」である場合に、特定通常兵器使用禁止制限条約（CCW）⁴の議定書IIIに規定される対象に該当し、「いかなる状況の下においても、文民たる住民全体、個々の文民又は民用物を焼夷兵器による攻撃目標とすることは禁止」されています。

一方で、白リンは、照明弾、曳光弾、発煙弾または信号弾方式など他の兵器としての手段にも利用することが可能ですが、議定書IIIではこういった「付随的に焼夷効果を持つ可能性がある」弾薬は焼夷兵器から除外されるとみなされており、これらすべての兵器が明確に議定書IIIの適用対象とされているわけではありません。最近では、シリアやイエメンなどの人口の多い地域でこの種の兵器が、より高い頻度で使用されています。

● 国連グローバル・コンパクト（「UNGC」）原則に反する企業

当社は、当社が投資する企業はUNGC原則の基準に整合しなければならず、また投資先企業によるこれらの原則に対する重大な違反行為は有害であり、注意を注がなければならないと考えています。当社は、不適切な事業慣習により将来の業務運営にリスクがあるとみられる最も深刻な問題のある銘柄を積極的に精査しています。

● ESG クオリティの低い投資対象

ESGリスクを管理し、ベストプラクティスを促進するため、当社は「コンプライ・オア・エクスプレイン（順守せよ、さもなくば説明せよ）」のアプローチ⁵を用いて、ESG基準の低い企業を積極的に精査します。当社は当社独自のESGスコアリング手法⁶を構築し、世界中の企業のESGへの取り組み実績を評価するとともに、当社の責任投資を組み入れたオープンエンド型ファンドにおいてESGスコアが2（0から10の11段階で）を下回る企業へのエクスポージャーを最小限にすることを目指しています。

⁴1983年12月2日付で発効しました。

⁵ESGスコアは、ある時点における発行体のESGに関する状況を十分に反映していない可能性があり、そのために「コンプライ・オア・エクスプレイン」のアプローチを実施しています。これは、ポートフォリオマネージャーの定性分析を基に、ESGアナリストの協力を得て、専任のガバナンス組織であるESGモニタリング・エンゲージメントコミッティーの監督下で実施しています。

⁶アクサIM独自のスコアリング手法のさらなる詳細についてはこちらのリンクをご参照ください（英語）。
<https://www.axa-im.com/responsible-investing/framework-and-scoring-methodology#scoring>

投資除外企業

セクター／分野	除外基準	アプローチ	根拠
たばこ	- たばこの製造に関わる企業（たばこの製造によって生み出される売上が0%超）	除外企業の関連会社についても、特に除外企業のために有価証券を発行する主体である場合や、除外企業と同様の分野で事業に従事する場合には、投資除外されることがあります。	対象発行体の第一段階のリストを作成するため、外部プロバイダーの情報に依拠します。
白リン弾 製造企業	- 白リン弾の開発、製造、保守、販売に関わる企業	投資除外リストは、途中での改定を要する特別な事態がない限り、少なくとも年に一度の更新がなされます ⁷ 。	その後、リストは定性的に見直しが行われ、当社のRIガバナンスコミッティーで少なくとも年に1度、定期的な検討が行われます。
UNGCに対する 違反行為	- UNGCに対する重大な違反行為があり、深刻な問題に直面している企業	ポートフォリオマネージャーは、定性分析において深刻なリスクが特定されない限りにおいて、ESG特性のスコアが低い発行体の組み入れを維持もしくは発行体への投資を行うことが認められません ⁸ 。	一部の発行体に対しては、投資除外アプローチに代わって、暫定的なエンゲージメント・アプローチが採用されることがあります ⁹ 。
ESGクオリティ の低い投資対象	- アクサIMの企業ESGスコアリング手法を用いた結果、ESGスコアが低い企業（0から10のスコアで2未満）		

出所：サステナリティクス、ISS Ethix、MSCI、Vigeo

⁷ 「特別な事態」の例としては報道などがあります。なお、投資除外リストはコーポレートアクションを受けて自動的に更新されるわけではありません。

⁸ クオオンツ投資戦略に関する特定のアプローチが整備されており、詳細は必要に応じてご提供可能です。

⁹ エンゲージメント活動の進捗状況は、RIガバナンスコミッティーによって注視されています。

適用範囲

金融商品

当社のESG基準方針は、投資除外企業、もしくは投資除外企業にエクスポージャーを提供している企業によって発行されたすべての金融商品を対象としています。

ポートフォリオ

ESG基準方針は原則として、アクサIMが運用する、責任投資を組み入れたすべてのオープンエンド型ファンドに適用されます^{10,11}。本方針は、お客様の正式な事前承諾があった場合に、専用ファンドおよびサードパーティーマンドートにも適用されます。

本方針は責任投資を組み入れていないオープンエンド型ファンドには適用されません。また、お客様の事前の承諾がなければ、専用ファンドにも適用されません。

基準の実施

ESG基準は、地域の法令およびお客様の最善の利益とファンドの最善の利益の双方を考慮に入れ、対象となるファンド／マンドートで基準の適用が最初に実施された後、また除外リストの定期的改定が実施された後、移行期間を伴い、最大限の努力を払って実施されます。基準の適用により投資撤退（ダイベストメント）が示された場合、ポートフォリオマネージャーは、市場環境、流動性およびポートフォリオ構築上の制約に基づくポートフォリオへの影響を考慮し、移行期間内にその裁量において投資撤退を実施します。実際には、対象となった金融商品は、お客様の最善の利益とみなされる場合にファンドまたはマンドートに一定の期間、保有されることがあります。しかし、組み入れが増えることはありません。

投資除外リストは外部のデータプロバイダーから得た情報を用いて作成されます。従ってアクサIMは、定性的レビューは実施しますが、データの正確性について責任を負うものではありません。

¹⁰適用範囲に含まれるオープンエンド型ファンドは、目論見書に「アクサIM ESG基準」と言及がなされており、また当社のサステナブル投資・インパクト投資ファンドを構成する一部です。これらのオープンエンド型ファンドは、金融機関等を対象としたサステナビリティ関連の開示に関する欧州議会・理事会規則2019/2088（「SFDR」）に従い、ESG特性を促進するもの（「同規則第8条」）、またはその目的として持続可能な投資を行うもの（「第9条」）として分類されています。各ファンドのRIカテゴリーの詳細は必要に応じてご提供可能です。

¹¹ESG基準を適用するファンド・オブ・ファンズの場合、少なくとも原ファンドの90%が基準を適用しています。

ディスクレーム

アクサ IM について

アクサ・インベストメント・マネージャーズ（アクサ IM）は責任ある資産運用会社であり、長期的なアクティブ運用を行うことで、お客様、従業員、そして世界の繁栄を支援しています。当社の確信度の高い運用アプローチにより、代替資産クラスおよび伝統的資産クラス全般で最も良好な投資機会と考えられるものを追求しています。2021年3月末時点で約8,690億ユーロの運用資産残高を有しています。

アクサ IM は、グリーン、社会、サステナブル市場における先進的な投資家であり、2021年3月時点で5,740億ユーロにおよぶ ESG（環境、社会、ガバナンス）統合済みのサステナブルおよびインパクト資産を運用しています。当社は、2050年までに、全運用資産における温室効果ガス排出のネットゼロ達成をコミットしており、株式銘柄選択から企業行動や文化に至る当社の事業に ESG 原則が組み込まれています。当社の目標は、社会と環境に有意義な変化をもたらしつつ、お客様に真に価値のある責任投資ソリューションをご提供することです。

アクサ IM は 20 カ国 27 拠点において 2,440 名余の従業員を擁し、グローバルな事業を展開しています。アクサ IM は、世界最大級の保険および資産運用グループであるアクサ・グループの一員です。

投資リスク及び費用について

当社が提供する戦略は、主に有価証券への投資を行いますが、当該有価証券の価格の下落により、投資元本を割り込む恐れがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動によっては投資元本を割り込む恐れがあります。したがって、お客様の投資元本は保証されているものではなく、運用の結果生じた利益及び損失はすべてお客様に帰属します。

また、当社の投資運用業務に係る報酬額およびその他費用は、お客様の運用資産の額や運用戦略（方針）等によって異なりますので、その合計額を表示することはできません。また、運用資産において行う有価証券等の取引に伴う売買手数料等はお客様の負担となります。

【ご留意事項】

当資料は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの情報提供に基づき、アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社が翻訳・作成した資料です。英文の原文と翻訳内容に齟齬がある場合には原文が優先します。

当資料は、情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券その他の投資商品についての投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保証するものではありません。当資料の内容は、作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に記載された運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の情報であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

アクサ IM が採用する ESG のモデル化プロセスは複雑であり、不確定要素が織り込まれる調査を伴います。また、アクサ IM は第三者のデータプロバイダーから収集した情報とデータに依拠しており、これらは不正確または不完全である場合があります。アクサ IM はかかる第三者のプロバイダーについての厳格な選定プロセスを採り入れており、適切な水準の監督を実施していますが、当社のプロセスおよび独自の ESG 手法は ESG リスクを必ずしも適切に捕捉していない場合があります。投資運用会社が、その投資プロセスにサステナビリティリスクまた

は PAI（主要悪影響指標）を統合する上で直面する課題のひとつは、その目的に適うデータの入手が限定的なことです。このようなデータは発行体からはまだ体系的に開示されておらず、不完全である可能性があり、開示された場合、さまざまな分析手法が実施される可能性があります。大部分の ESG 要因情報は過去のデータに基づくものであり、投資対象の将来の ESG パフォーマンスまたはリスクを反映するものではありません。

当資料を事前の了承なく複製または配布等を行わないようにお願いします。

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

金融商品取引業者 登録番号: 関東財務局長（金商）第 16 号

加入協会: 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、日本証券業協会

Ref-21804